

## 安全データシート(SDS)

整理番号： 150930-BH2  
作成： 2012年6月10日  
改訂： 2018年3月30日

製品名： H1ベルハンマー原液 1L

## 1. 化学物質等及び会社情報

製品名： H1ベルハンマー 原液 1L  
会社名： スズキ機工株式会社  
住所： 〒270-2214 千葉県松戸市松飛台316-3  
担当部門：  
緊急連絡電話番号： 電話番号 047-385-5311 F A X 番号 047-385-5313

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類 「GHSに基づく化学物質等の分類方法」(JIS Z7252-2009)  
物理化学的危険性  
引火性液体 : 区分外

人健康有害性  
特定標的臓器毒性(反復ばく露: 区分1(肝臓、リンパ節))

上記以外の危険有害性は、区分外または分類対象外かまたは分類できない。

ラベル要素  
絵表示 :



注意喚起語 : 危険  
危険有害性情報 : 長期にわたる又は反復ばく露による肝臓、リンパ節の障害

注意書き

- 【安全対策】 : 粉じん/煙/ガス/ミストを吸入しないこと。  
取り扱い後はよく手を洗うこと。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと
- 【応急措置】 : 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。
- 【保管】 : GHS基準による注意書きなし
- 【廃棄】 : 内容物や容器を廃棄する場合は、法律・各自治体の条例に基づき、許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託する。

その他 : 300℃以上に加熱したり、長時間260℃以上に加熱すると、ポリマーヒューム熱の原因と考えられる微粒子状物質を発生する。  
約400℃で分解生成物を発生する

GHS分類による上記注意書きに記載がない場合でも、以降の情報を参考に安全対策・応急措置・保管・廃棄に関しては十分な配慮を行うこと。

## 3. 組成及び成分情報

## 安全データシート(SDS)

整理番号： 150930-BH2

作成： 2012年6月10日

改訂： 2018年3月30日

製品名： H1ベルハンマー原液 1L

---

単一製品・混合物の区	:混合物
化学名又は一般名	:潤滑油
成分及び含有量	:流動化パラフィン 97%~99% :PTFE 1%~3%
化学特性(化学式)	:特定できない
官報公示整理番号	
化審法	:非公開
CASNo.	:非公開

---

## 安全データシート(SDS)

整理番号： 150930-BH2  
作成： 2012年6月10日  
改訂： 2018年3月30日

製品名： H1ベルハンマー原液 1L

---

## 4. 応急措置

吸入した場合： 気分が悪い時は医師の手当・診断を受けること

皮膚に付着した場合： 皮膚を速やかに水で十分に洗浄すること。  
皮膚刺激が生じた場合は医師の診断・手当を受けること

眼に入った場合： 水で数分間注意深く洗うこと。  
目の刺激が続く場合は、眼科医の診断・手当を受けること。

飲み込んだ場合： 無理に吐かせない。水で十分洗浄すること。  
直ちに医師の診断を受ける

予想される急性症状及び遅発性症状： ミストを吸入すると気分が悪くなることもある。  
皮膚に接触すると、皮膚の発赤することがある  
眼に接触すると、発赤、痛みを及ぼすことがある。  
飲み込むと、胃の粘膜を刺激し、吐くことがある。

---

## 5. 火災時の措置

消火剤： 泡消火剤、粉末、二酸化炭素消火剤

使ってはならない消火剤： 棒状水の使用は火災を拡大し、危険な場合がある。

特有の危険有害性： 火災によって刺激性、腐食性又は毒性ガスを発生する恐れがある。  
加熱により容器が爆発する恐れがある。

消火方法： 初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を使用する。  
大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。  
危険がなければ火災区域から容器を移動させる。消火後も  
大量の水を用いて十分に容器を冷却させる。  
火元への燃焼元を断ち、消火剤を使用して消火する  
また、延焼の恐れのないよう水スプレーで周辺のタンク・建物等を冷却する。  
消火作業は風上から行い、場合によっては呼吸保護具を着用する。

---

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項： 保護具を着用する。漏出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外立ち入り禁止に  
風上に留まる  
低地から離れる

環境に対する注意事項： 流出した製品が河川等に排出されないように注意する

## 安全データシート(SDS)

整理番号： 150930-BH2

作成： 2012年6月10日

改訂： 2018年3月30日

製品名： H1ベルハンマー原液 1L

除去方法： 少量の場合は乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて密閉できる空容器に回収する  
大量の場合は盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する  
化学物質専用の場所で焼却、又は廃棄処理する

二次災害の防止策： すべての発火源を速やかに取り除く。(近傍での喫煙、火花や大炎の禁止)

## 7. 取扱い及び保管上の注意

## 取扱い

技術的対策： 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行う。  
指定数量以上の量を取り扱う場合には、  
法に定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。  
保護眼鏡や保護手袋等の適切な保護具を着用し、直接の接触を避ける。  
通常の状態では安定しているが、260℃以上で分解が始まるので、  
260℃以上になる箇所で使用する場合、局所排気装置を設置する必要がある。

安全取扱い注意事項： 作業場の換気を十分に行うこと  
火気、静電気、衝撃火花等の着火源の生じないよう注意する。  
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。  
ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入をしないこと。  
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。  
環境への放出を避けること。

## 保管

技術的対策： 保管場所には危険物を貯蔵し、貯蔵タンクは全てアースし、  
ベーパーレスにより作業、装置を使用する。取り扱いのために必要な床、照明及び換気の設備を  
設ける

保管条件： 密閉し、屋内冷暗所に保管する。  
熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙  
酸化剤から離して保管する。  
容器は直射日光や火気を避けること。  
施錠して保管すること。

混融危険物質 強酸化剤

容器包装材料 消防法及び国連郵送法規で規定されている容器を使用のこと

## 8. 暴露防止及び保護措置

設備対策： 260℃以上になる場合は発生源の密閉化又は局所排気装置を  
設ける。電気機器類は防爆構造のものを用いる。取り扱い場所  
の近くに洗眼及び身体洗浄の為の設備を設ける。

管理濃度： 設定されていない(作業環評価境基準：平成21年厚生労働省告示第194/195)

## 安全データシート(SDS)

整理番号： 150930-BH2

作成： 2012年6月10日

改訂： 2018年3月30日

製品名： H1ベルハンマー原液 1L

許容濃度： ・日本産業衛生学会  
3mg/m<sup>3</sup>(鉱油ミスト、2010年)  
TWA総粉塵8mg/m<sup>3</sup>(ポリテトラフルオロエチレン,2001年)

・ACGIH  
TLV=TWA 5mg/m<sup>3</sup>(鉱油ミスト、2010年)  
TWA総粉塵10mg/m<sup>3</sup>(ポリテトラフルオロエチレン,2001年)

保護対策 適切な防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。  
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。  
空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。  
高熱工程でミストが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度以下に保つために換気装置を

## 保護具:

呼吸用の保護具： 通常は必要ではないが、260℃以下などでヒュームの発生が考えられる場合は  
安衛法規定による有機ガス用ガスマスク、260℃以上で生ずる分解ガスに人体が暴露される場  
安衛法既定のエアーラインマスクを着用する。

手の保護具： 耐溶剤または不浸透性ゴム手袋。

眼の保護具： 適切な眼の保護具を着用のこと。

皮膚及び身体の保護具： 長時間に取り扱う場合、または濡れる場合は耐油性の長袖作業着等を着用すること

衛生対策： 作業中は飲食、喫煙はしないこと。  
濡れた衣服等は脱ぎ、完全に洗浄してから再利用する。  
取り扱い後はよく手を洗うこと。

## 9. 物理的及び化学的性質

## 物理的状态

形状	液体
色	淡白色
臭い	微臭
沸点	データ無し
分解温度	分解開始温度について報告されている文献についてはいくつかの食い違いがあるが、 一般的見解では260℃以上でわずかに分解が始まり、400℃以上で明らかな分解が始まるとき 熱分解により生成が始まる可能性のある温度レベルと成分は400℃以上で フッ化カルボニル及びフッ化水素、430℃以上でテトラフルオロエチレン、 440℃以上でヘキサフルオロプロピレン、 475℃以上でパーフロイソブチレン、500℃以上でフッ化カルボニルである。
蒸気圧	データ無し
揮発性	データ無し
発火点	データ無し
引火点	204℃(@C.O.C)代表値
爆発限界	データ無し
可燃性	消防法 危険物 第4類第4石油類(非水溶性液体)

## 安全データシート(SDS)

整理番号： 150930-BH2

作成： 2012年6月10日

改訂： 2018年3月30日

製品名： H1ベルハンマー原液 1L

---

融点	-22.5°C (JIS K-2269 流動点) 代表値
初留点	データ無し
溶解性	水に不溶。石油系溶剤に溶解する。
密度	0.87g/cm <sup>3</sup> (@15C)代表値
動粘度	35.3 mm <sup>2</sup> /s(@40°C) 代表値 ベースオイル
その他	データ無し

---

## 10. 安定性及び反応性

安定性	室温では安定
反応性	強酸化剤(混触禁止物質)と接触すると反応する場合がある。 PTFEは260°C以上で極めてゆっくり分解を始める。400°C以上で分解速度が速くなる。 アルミニウム及びマグネシウムのような金属の粉末、 フッ素及び三塩化フッ素のようなフッ素化合物と反応し、火災や爆発を起こす恐れがある。
避けるべき条件	炎、火花または高温体などの混触危険物質との接触
混触危険物質	金属の粉末、ハロゲン類、過酸化物、強酸化剤
その他	データなし

---

## 安全データシート(SDS)

整理番号： 150930-BH2

作成： 2012年6月10日

改訂： 2018年3月30日

製品名： H1ベルハンマー原液 1L

## 11. 有害性情報

急性毒性(経口)	データ不足のため分類できない
急性毒性(経皮)	データ不足のため分類できない
急性毒性(吸入・ミスト)	データ不足のため分類できない
皮膚腐食性・刺激性	データ不足のため分類できない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	データ不足のため分類できない
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない
皮膚感作性	データ不足のため分類できない
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない
発がん性	データ不足のため分類できない
生殖毒性	データ不足のため分類できない
特定標的臓器毒性(単回曝露)	データ不足のため分類できない
特定標的臓器毒性(反復曝露)	区分1(肝臓、リンパ節)の成分を濃度限界以上含むので区分1(肝臓、リンパ節)とした。
吸引性呼吸有害性	区分外

※上記の判定は「GHSに基づく化学物質の分類方法」(JIS Z7252-2014)に従った。

## 12. 環境影響情報

水生環境急性毒性： データ不足のため分類できない

水生環境慢性毒性： データ不足のため分類できない

※上記の判定は「GHSに基づく化学物質の分類方法」(JIS Z7252-2014)に従った。

移動性： 環境に排出された場合、土壌に移動する可能性がある。

残留性/分解性： 情報なし

## 13. 廃棄上の注意

残存廃棄物

関係法令(廃棄物処理法、消防法等)に従って処理する必要があり、これを専門に取り扱う都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適正な処

## 安全データシート(SDS)

整理番号： 150930-BH2

作成： 2012年6月10日

改訂： 2018年3月30日

製品名： H1ベルハンマー原液 1L

## 14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報

非危険物

航空規制情報

非危険物

国内規制

陸上

下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により  
消防法 危険物 第4類第4石油類(非水溶性液体)

海上

船舶安全法 非危険物 個別運送及びばら積み運送において

航空

航空法 非危険物

特別の安全対策

運搬容器及び包装の外部に、品名、数量、危険等級および「火気厳禁」の表示をする。  
指定数量以上を車両で運搬する場合、「危」の標識を車両前後に表示し、消火設備を備える。  
陸上輸送の場合、運搬時の積み重ね高さは3m以下である。  
第1類及び第6類の危険物との混載を禁止する。  
その他関係法令の定めるところに従う。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法

通知対象物(57条の2第1項)

非該当

消防法

危険物第4類 第4石油類に該当

化学物質管理促進法(PRTR法)

非該当

毒物及び劇薬取締法

非該当

水質汚濁防止法:

油分排出規制(許容濃度5mg/1ノルマルヘキサン抽出分として)

海洋汚染防止法:

油分排出規制(原則禁止)

下水道法:

油分排出規制(5mg/1)

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

産業廃棄物規制(拡散、流出の禁止)

## 16. その他の情報

参考文献等:

- 1) 化学物質等安全データシート(MSDS)ー第1部:内容及び項目の順序 (JIS Z7250)
- 2) 国際化学物質安全性カード(ICSC)  
コンパイラズガイド 日本語版国立衛生試験所化学物質情報部編、化学工業日報社、1994年
- 3) 製品安全データシートの作成指針(改訂版)  
厚生労働省医薬局審査管理課化学物質安全対策室他 監修  
(社)日本化学工業協会・日本レスポンシブル・ケア協議会
- 4) GHSの挑戦 化学品の危険有害性情報に関する国際規格、化学工業日報社、2006年
- 5) 化学品の分類および表示に関する世界調和システム  
(GHS)改訂3版、GHS関係省庁連絡会議訳、化学工業日報社、2010年  
各原料の製品安全データシート

記載内容の取扱い:

本文書の記載内容は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。  
この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。  
全ての化学品には未知の有害性がありうるため、取扱には細心の注意が必要です。  
ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。